

## 常に想像力のある技術者たれ



植田 健二

株式会社開発工営社 代表取締役社長

新しい元号、「令和」を迎えた 2019 年ですが、年初めから熊本・北海道で震度 6 弱を記録する地震に見舞われ、その後も宮崎・千葉・山形・福島と各地で大きな地震が続いております。また、夏以降の台風による影響は、九州豪雨に始まり日本全国にわたって強風による建物被害や、大雨による川の氾濫・浸水被害をもたらしています。中でも関東近郊を直撃した台風 15 号・19 号は、多くの死者・行方不明者がでる甚大な災害となりました。被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、1 日も早い復旧をお祈り申し上げます。

このような災害が続く状況をみますと、昨年の胆振東部地震や、平成 28 年の 3 連続台風上陸による災害が思い出され、「自然の猛威」というものを改めて痛感させられます。我々、社会資本整備に携わるものとして、まさに災害活動期の今こそ、土木技術者としての「技術力」に加え、「想像力」を発揮していくことが重要であると考えております。

私の考える「想像力」の一つは、今まで経験してきた被災事例を生かした設計ができるかということです。「過去の地震では構造物のこの部分の被災が多かった」、「過去の台風では河川のこの部分で被災が起きた」という事実を現状の設計に投影し、より安全性の高い設計に繋げていくことです。もう一つは、想定外を見据える想像力です。災害は常に想定外の事象から発生しています。基準や要領に準拠していることはもちろんですが、基準を少しでも超えた瞬間に全く機能しなくなるような設計になっていないかを想像することが重要です。

当社の経営方針の一つであります「確かな技術と信頼に裏付けられた課題解決」に表すように、設計基準よりも一歩踏み込んだ想像力と、技術提案力が重要となります。このためには、被災から学ぶ真摯な姿勢が重要です。当社では、北海道胆振東部地震の被災調査や、被災地見学会への参加等、災害の情報収集に取り組んでおります。

社会資本整備を取り巻く環境が大きく変化している中、発注者の要求も高まっていますが、おかげさまで弊社は、13 年連続で北海道開発局局長表彰をいただくことができました。少なからず社会貢献できていることの証と自負しております。弊社はこれからも、個々の技術力と総合技術力の研鑽を進め、社会資本整備を通じて国民の生命と財産を守り、安全・安心な地域社会作りにも貢献するとともに、発注者の良きパートナーとして取り組んでいく所存であります。

今後とも、弊社をご愛顧下さいますよう、お願い申し上げます。